

巻頭インタビュー

毛糸で生き生き

—誰かのために編む喜びを
生きる糧として—

テディ・サーカさん

アメリカ合衆国出身
七ヶ浜町在住
ヤーン アライブ
編み物グループ「Yarn Alive」主宰者

—まず、ご出身について教えてくださいか？

アメリカ中西部の北東にあるオハイオ州のアクロン市に生まれ育ちました。州の北部には五大湖のひとつエリー湖があり、その北岸はカナダのオンタリオ州です。父は建設関係の会社を営んでいて、母は主婦、兄弟は9人で、私は長女でした。仕事柄、父の周りには細かい作業を得意とする人達が多くいて、母も編み物を教えている時期がありましたので、兄弟は皆、手を使って何かを作るのが好きでした。私は5歳ごろからマフラーなどを編み始めました。すぐ下の妹は縫い物が得意で、ミシンで冬物のコートや帽子を縫っていました。

—日本に初めて来られたのは、いつでしょうか？

半世紀以上前、カナダでの大学生活2年目のときです。長野県の上田市に約4ヶ月滞在し、地元の大学の英会話クラブや幼稚園で英語を教えました。このときのことは今でもよく覚えています。洋食はまだ珍しく、ほとんどの飲食店にはフォークすら置いておらず、頼むとスプーンを出してくれる程度でした。そのため、お箸で豆をつまむ特訓をしました。毎日通った銭湯は、入浴は1回30円、髪を洗うと33円でした。番台に男性が座っているのに驚きましたが、慣れると何でもないことだと思ふようになりました。

—楽しい思い出ですね。その後、結婚されて再び日本に来られたのでしょうか。

1975年にカナダ人の宣教師の夫とともに再び日本にきました。長野県内や栃木県内に住み、英語を教えたり、私自身も宣教師としての活動をしたりしながら、3人の男の子を育てました。七ヶ浜町とご縁で申し上げますと、私達は1980年代から毎年夏は家族で七ヶ浜町の「高山外国人避暑地」で過ごしていました。当初は借りていましたが、1980年代後半に一軒家を買って、私が60歳を迎えたのをきっかけに、七ヶ浜町に腰を据えました。

—東日本大震災のときは、七ヶ浜町にいらっしゃったんですね。

自宅にいました。激しく揺れ、本当に驚きました。津波は高台にある我が家までは到達しませんでした。近くに住む三男夫婦が私達夫婦を迎えに来たので、いったんさらに高い場所に逃げました。逃げる途中、津波が家々をなぎ倒す音を聞きました。落ち着いてから自宅に戻りましたが、しばらくは水道が使えず、不便な生活を送りました。



「Yarn Alive House」で、編み物をする参加者。テディさんは中央。

—「Yarn Alive」の活動を始められたのは、どうしてでしょうか？

「Yarn」は毛糸、「Alive」は「生き生きとした」という意味で、編み物を通じた被災者の生きがいづくりが目的でした。仮設住宅の部屋の中で1日中テレビを見るような生活を送っていると、生きるのが辛くなってしまう。手を使って何かを編むことで気持ちが落ち着き、生活に張りが生まれると思いました。阪神・淡路大震災を経験した友達から被災者の心のケアが必要だと聞いていましたし、また毎日何かを編んでいた祖母について、「やるべきことが残っているから、まだ死ねないね」と母が話していたのも、頭のどこかに残っていました。

—どのようなことをされたのでしょうか？

震災後、3カ月ほど経った頃から、七ヶ浜町内の仮設住宅に、編み物に関心がある女性達に集ってもらいました。最初は、参加者ひとりひとりが小さなモチーフを編み、それを編み合わせてひざ掛けを作り、気仙沼の被災者にプレゼントしました。

—活動の幅が徐々に広がっていったようですね。

参加者は、高齢者を中心に最も多い時で80人になりました。みんな赤ちゃん用の帽子や小さな靴などいろいろなものを編み、2015年のネパール大地震の被災者やヨルダンのシリア難民など、何らかの理由で困っている世界の様々な地域の方々に届けるようになりました。また、国内外で私達の活動が報道されたことで、毛糸や編み針が世界各国から届くようになりました。そうした活動を通じて、参加者は人や世界とつながり、「自分は誰かの役に立っている」と感じるようになりました。

—すばらしいですね。最後に、抱負を教えてください。

震災のときに、被災者として私達は世界中の方々から支援を受けましたので、私達の活動は、その恩返しと捉えています。編むために手を動かすこと、そして編む間、楽しくおしゃべりすることはストレス解消、認知症予防にもなります。何より、編むことで誰かの役に立てることが、参加者に大きな生きがいをもたらします。ですから、世界中の方々からの寄付をもとに2015年に完成した「Yarn Alive House」を拠点とし、今後もこの活動を続けていくつもりです。

このコーナーでは、県内の国際活動団体の2019年2月～3月の活動予定をご紹介します。

MIAイベントカレンダー

2019	2	S	M	T	W	T	F	S	3	S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	

※●はイベント開催予定日です。詳しい内容については以下でご確認ください。

アイコンの見方

主催

会場

時間

申し込み

参加費

電話

FAX

Eメール

ホームページ

2月 FEBRUARY

2日

モンゴル文化にふれてみませんか？

- 白い馬の会
- 仙台国際センター 交流コーナー 研修室
- 🕒 13:00～
- 👉 不要
- 💰 500円
- ※小学生以下無料
- ☎ 090-6629-5822
- ✉ shiroiuma-sd@yahoo.co.jp

2日

平成30年度国際協力セミナー Viva Brasil!
日系ブラジル社会110年の絆フォト&トーク

- (公財)宮城県国際化協会、JICA東北
- 仙台第一生命タワービル 11階 会議室
- 🕒 14:00～16:00(13:30開場)
- 👉 要(電話・メール)
- 💰 無料
- ☎ 022-223-4772
- FAX 022-227-3090
- ✉ thictpp@jica.go.jp
- 🌐 <https://www.jica.go.jp/tohoku/event/index.html>

3・8・10・11・17・24日

瑞巖寺ボランティアガイド

- 松島善意通訳者の会
- 瑞巖寺
- 🕒 10:00～15:00
- 👉 不要(直接現地へ)
- 💰 入館料700円は自己負担
- 🌐 <http://www.matsushimagw.club/>

9日

クレープ・パーティー

- 仙台日仏協会 アリانس・フランセーズ
- アリانس・フランセーズ仙台
- 🕒 13:00～15:00
- 👉 要(電話・FAX・メール・来館)
- ※2月6日締切
- 💰 会員2,000円、非会員2,500円
- 非飲酒の方・未成年1,500円
- ※当日参加各+500円
- ☎ 022-225-1475
- FAX 022-225-1407
- ✉ contact@afsendai.com
- 🌐 <http://afsendai.com>

16日

多文化な子どもたちの支援について考える
シンポジウム

- (公財)宮城県国際化協会
- TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口
ホール8B
- 🕒 13:30～
- 👉 要(電話・FAX・メール) ※定員60人
- 💰 無料
- ☎ 022-275-3796

FAX 022-272-5063

✉ mail@mia-miyagi.jp

20日

申請取次行政書士による外国人のための
入管手続無料相談会

- 宮城県行政書士会
- 仙台市青葉区役所 4階 市民相談会会場
- 🕒 13:00～16:00
- 👉 電話受付または予約なしでもOK
- 💰 無料
- ☎ 022-261-6768
- FAX 022-261-0610

21日

アフリカと日本の自然災害を考える
～天災と地災～

- アフリカ・セミナーの会
- 仙台国際センター 交流コーナー 研修室
- 🕒 10:00～12:00
- 👉 不要
- 💰 1,000円
- ☎ FAX 022-362-7907

22日

SenTIA日本語ボランティア研修会

- ～外国につながる子どもの学習サポート～
- (公財)仙台観光国際協会
- (公財)仙台観光国際協会 4階 会議室
- 🕒 13:00～16:00
- 👉 要(電話・メール)
- 💰 無料
- ☎ 022-268-6260
- FAX 022-268-6252
- ✉ r-sato@senticia-sendai.jp
- 🌐 <http://int.senticia-sendai.jp/j/>

23日

災害時言語ボランティア公開研修会
「札幌地震における外国人支援について」

- (公財)仙台観光国際協会
- 仙台国際センター 交流コーナー 研修室
- 🕒 10:00～12:30
- 👉 要(電話・FAX・メール)
- 💰 無料
- ☎ 022-268-6260
- FAX 022-268-6252
- ✉ m-horino@senticia-sendai.jp
- 🌐 <http://int.senticia-sendai.jp/j/>

24日

外国人のための防災講座

- 気仙沼市小さな国際大使館
- 気仙沼・本吉広域防災センター
- 🕒 13:30～16:00
- 👉 要(電話・FAX・メール) ※定員30人
- 💰 無料
- ☎ 0226-22-6600 (内線336)
- FAX 0226-24-1226
- ✉ taishikan@kesennuma.miyagi.jp

25日

外国人児童と家族のための
小学校入学準備講座及び相談会

- (公財)仙台観光国際協会
- 仙台国際センター 交流コーナー 研修室
- 🕒 13:00～15:00
- 👉 要(電話・メール)
- 💰 無料
- ☎ 022-268-6260
- FAX 022-268-6252
- ✉ r-ou@senticia-sendai.jp
- 🌐 <http://int.senticia-sendai.jp/j/>

3月 MARCH

3・8・10・17・24・31日

瑞巖寺ボランティアガイド

- 松島善意通訳者の会
- 瑞巖寺
- 🕒 10:00～15:00
- 👉 不要(直接現地へ)
- 💰 入館料700円は自己負担
- 🌐 <http://www.matsushimagw.club/>

20日

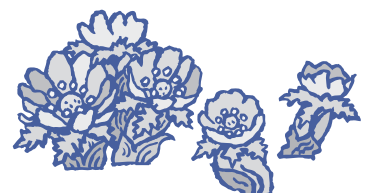
申請取次行政書士による外国人のための
入管手続無料相談会

- 宮城県行政書士会
- 仙台市青葉区役所 4階 市民相談会会場
- 🕒 13:00～16:00
- 👉 電話受付または予約なしでもOK
- 💰 無料
- ☎ 022-261-6768
- FAX 022-261-0610

23日

MIA日本語ボランティアセミナー

- (公財)宮城県国際化協会
- エル・パーク仙台
セミナーホール
- 🕒 13:00～16:00
- 👉 要(電話・FAX・メール) ※定員60人
- 💰 無料
- ☎ 022-275-3796
- FAX 022-272-5063
- ✉ mail@mia-miyagi.jp





MIA日本語ボランティアセミナー

このセミナーは、地域の日本語教室等での支援のあり方について考えること、また、参加者同士の意見交換・情報交換を通して相互の連携を図ることにより、それぞれの活動をより良いものとしていただくことを目的として開催するものです。ご関心のある方、是非ご参加ください。

- 日時：2019年3月23日(土) 13:00～16:00
- 場所：エル・パーク仙台 セミナーホール
(仙台市青葉区一番町4-11-1)
- 主催：宮城県国際化協会(MIA)

●内容：

◎ワークショップ

「日本語学習支援につながる“おしゃべり(対話活動)”について考える」

講師：鈴木英子さん(MIA日本語講座スーパーバイザー・東北中国帰国者支援・交流センター日本語講師)

- 参加費：無料
- 定員：定員60名(要申込み)

「多文化な子どもたちの支援について考えるシンポジウム」

多様化する社会を支える担い手ともなる、外国籍児童生徒のサポートのあり方について考えるためのシンポジウムです。ご関心のある方、是非ご参加ください。

- 日時：2019年2月16日(土) 13:30～
- 場所：TKPガーデンシティPREMIUM
仙台西口 ホール8B
(仙台市青葉区花京院1-2-15
ソラプラザ8F)
- 主催：宮城県国際化協会(MIA)



第一部講師 田所希衣子さん

●内容(予定)

◎第一部

講演「多文化な子どもたちの可能性を広げるために」

講師：田所希衣子さん(外国人の子ども・サポートの会代表)

◎第二部

県内のサポート活動事例の紹介

コーディネーター：市瀬智紀さん

(宮城教育大学教員キャリア研究機構教授)

- 参加費：無料
- 定員：60名(要申し込み)

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「日本語教育のミカター対話で具体的に学ぶ新しい教科書」

著者：荒川洋平 発行：凡人社

「具体的な日本語の教え方」と「教える上で大切な日本語の知識」がわかりやすくまとめられた、日本語教育に関心がある方向けの入門編の「教科書」です。

日本語教師の「ロン先生」と3人の生徒の対話を通じて学ぶ形式になっているので、物語のように読み進めながら、日本語の教え方について理解を深めることができます。

基礎的な知識について理解したあとに、更に探求を深めるための課題や参考図書も掲載されていて、次のステップへ進む足がかりも得られます。

発行元のウェブサイト上で、単語や文型の導入、アクティビティの様子など、実際に著者が授業をしている動画が公開されているのも必見です。



JICA東北からのお知らせ

所在地 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル20階

TEL 022-223-4772 FAX 022-227-3090 E-mail thictpp@jica.go.jp JICA東北ホームページ <http://www.jica.go.jp/tohoku/>

※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています)

JICA青年海外協力隊・シニア海外協力隊 春募集

★例年4月に春募集をしていましたが、今年は2月13日より募集開始予定です。

★青年・シニア海外協力隊 体験談&説明会を、JICA東北で開催します!

2019年3月15日(金) 19:00～21:00

2019年3月16日(土) 11:00～17:00(予定)

●いずれも予約不要、入場無料、入退室自由。協力隊経験者の体験談のほか、個別応募相談が可能です。お気軽にお越しください。

●プログラムや、来場するOB/OGについてはJICA東北ホームページでご確認ください。

★ご相談・お問い合わせ:JICA東北市民参加協力課 ボランティア担当

TEL 022-223-4772 E-mail jicathic-jv@jica.go.jp





仙台防災未来フォーラム2019でブース出展とプレゼンテーションを行います

「仙台防災未来フォーラム2019」(主催:仙台市)で、当協会は仙台観光国際協会(SenTIA)と共同でブース出展とプレゼンテーションを行います。外国人労働者の急増にともない外国人の防災対策についても重要度が増していますが、各協会が現在行っている在住外国人の各種支援活動や防災・減災活動を紹介します。

●日時: 2019年3月10日(日)10:00~17:30

●場所: 仙台国際センター 展示棟

●入場: 無料

SenTIAとMIAのプレゼンテーション「外国人は災害弱者? ~災害時における外国人の自助・共助・公助、その課題と対策」は、10:00~11:00にC会場で行われます。詳細は同フォーラムHPIにてご確認ください。https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2019/

みやぎのふるさとふれあい事業 ~村田町編~

MIAでは、県内の自治体と協力し、毎年秋に「みやぎのふるさとふれあい事業」を実施しています。この事業は、地域の観光名所の見学やホームステイを通じて、県内在住の外国人が宮城への理解を深め、県民と交流する場を提供するものです。

今年は、利府町(9/29~30)、石巻市(10/6~7)、村田町(10/7)の3市町で実施され、15の国と地域の35人の外国人が参加しました。このうち、村田町のプログラムでは、9つの国と地域の14人の外国人が、巨大な布袋人形が笛や太鼓に合わせて山車の上で舞う「布袋まつり」の山車曳きに挑戦し、古い蔵が並び町並みや地元の由緒ある神社の見学を楽しみました。

プログラム終了後のアンケートには、参加者から「日本人と交流ができて良かった」、「美しい景色を心から楽しんだ」、「外国人が地域の文化や人々や伝統的な信仰を知る良い機会になった」といった感想が寄せられ、満足度の高さが窺われました。

本事業は例年、どのプログラムにも定員を上回る応募があり、また参加者から高い評価を得ている人気の事業です。当協会としては今後、より多くの市町村で実施され、県内在住の外国人と県民との相互理解が深まることを願っています。



お揃いの法被を着た参加者

サポーターの声

西村 ロセリンさん MIA外国人支援通訳サポーター (タガログ語)



日本に住んで約20年になります。夫は日本人です。7年ほど前から仙台に住んでいます。

通訳サポーターには2年前に登録し、日本語が不自由なフィリピン人の家庭生活に関わる場面や医療現場での通訳を担当してきました。大変なのは、困難な立場に置かれている方の通訳です。私まで苦しい気持ちになることがあります。通訳を終えた後に気持ちを整理することで、そのときの感情を引きずらないようにしています。嬉しいことは、困っている人を助けられることです。やりがいがありますし、社会に貢献する喜びも感じます。

通訳サポーターに登録していると、各種の研修に参加する機会があるのも魅力です。昨年11月には、結核・感染症担当職員向けの研修の一環として青葉区役所内で実施された、感染防止効果が高いといわれる「N95」のマスクの装着テストに参加しました。マスクを着用した状態で特殊なフードを被り、人工甘味料を噴霧してもらったところ、全く甘みを感じず、その性能の高さを実感しました。感染症関係の通訳現場に行くことには不安がありましたが、「N95」のマスクを適切に装着することで、安心して通訳できたと感じました。

初めて通訳現場に行くときは緊張しましたが、通訳や研修を通じて学び、経験を積んでいくことが、いろいろな世界を知るきっかけになっています。



「N95」のマスクの装着テスト

「MIA外国人支援通訳サポーター」とは…

県内に暮らす外国人が、安心して医療や公的なサービスが受けられるよう、保健所や医療機関、行政機関などで通訳活動を行うものです。「MIA外国人支援通訳サポーター」への登録をご希望の方は、MIAまでお問い合わせ下さい。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員/1口 3,000円

団体会員/1口 10,000円

●賛助会員の特典

●協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の
定期送付(年6回)

●当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

●個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引

(株)JTB東北仙台支店 宮城観光サービス(株)

●企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

●本協会あて御連絡ください。

所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部MIA vol.101

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL http://mia-miyagi.jp/



再生紙を使用しています。